



やなぎだ昌孝

まさ

たか

市政報告

vol.3

日本維新の会奈良市議団 所属

〒630-8043 奈良市六条1丁目12-2 TEL: 0742-46-2888

<https://m-yanagida.com>



奈良市議会の柳田昌孝は、今年度の市議会活動の中、所属する日本維新の会を代表し本会議にて、2025年に開催が予定され、2800万人以上の来場者が見込まれている大阪・関西万博を契機に奈良への来訪者を増やす取り組みや、市が策定した「奈良らしい眺望景観」を守り、さらなる活用を図っていくための施策などについて質問、提言を行いました。私の議会活動や奈良市政の動きについて市民の皆様にご報告いたします。

万博開催 世界に奈良をアピール

再訪問や定住促進へ繋がる取り組み求める



今年度の市議会9月定例会で私は、所属する日本維新の会を代表して本会議に登壇。大阪・関西万博が開催される2025年に向けて「万博のような大規模なイベントが今後開催されることはなかなかない。この奈良を世界へアピールする絶好の機会を逃すことなく活かしてほしい」と述べ、連携や市の取り組み、今後の予定についてたどしました。

市は、2800万人以上の来場者が見込まれる万博の活用が重要と認識しており、開催までの3年間で進めるべき取り組みを整理する「ロードマップ」

の策定を進め、万博の公式プログラムの「共創チャレンジ」への参画を検討していると説明しました。

また、外国人に奈良のまちの魅力を伝える取り組みの一貫として、市の英語スローガンの作成を、市立一条高校附属中学校の生徒が進めていることを明かしました。

私は「単なる観光といった一過性のものではなく、定住促進や再び訪問したくなる、住みたくなるまちと感じられるよう、先進的な取り組みで万博との連携を」と、強く求めました。

西ノ京の大池 整備手つかず 市の姿勢追及、有効活用の青写真要望

奈良市は平成23年度に歴史や文化が香る市内計41カ所の景観を「奈良らしい眺望景観」に選定し、翌24年度に「奈良市眺望景観保全計画」を策定、保全と整備を行って利活用していくことを明記しています。西ノ京の大池=写真=も、奈良市が定める「奈良らしい眺望景観」の一つになっています。しかしながら、これらの保全活用に対して市は、手つかずのままになっています。

計画で大池は案内板や休憩施設、周遊道などの整備や安全性の確保などの整備を行うと目標を定めています。私は手つかずになっている点について、市の姿勢を追及。市は、建物の高さや意匠、形態の規制を行ってきたが、「整えるための施策」や「活かすための施策」についての取り組みは十分とは言えない状況だと認めました。

また市は「大池からの眺望は奈良市を代表する眺望景観。しかしながら、西ノ京駅から西側の地域については現在、道路の課題箇所の解消のための

整備を各所で進めている。市としては現在進めている道路の課題の解消を第一優先として早期に完了し、安全性を高めたい」と答弁がありました。

私は観光政策と安全対策の両面から、もっと大池を有効活用することを求めました。加えて、大池の管理に対しては、数年前まで地元に対して補助金が交付されていましたが、打ち切りになっている現状を訴え「大池は単な



る農業用ため池ではなく、市にとって特別な価値があるもの。地元に対して市からの協力や役割の分担を」と強く求め、青写真を要望しました。

西ノ京整備計画、現場の生の声を行政へ

新年度からまちづくり団体設立

バス道路で通学や歩行の安全性確保が長年難しくなっていた近鉄西ノ京駅周辺の道路整備は、拡幅など市の整備計画が進んでいます。官民が一体となって地域の安全・安心や次世代のまちづくりを進めていくため、また地域や現場から行政へ声を届け、整備計画に反映していくため、新年度からまちづくりの団体が設立される予定です。

近鉄西ノ京駅周辺は、従来からのバス運行があり、また新たに県立奈良総合医療センターが設立されたことによる交通量の増加で、通学や歩行者の安全の確保が難しくなっています。

地元や私の要望で市はこれらの現状を把握。道路の整備を進めていく計画ですが、これらの計画に対して、地元の生の声や要望を行政に伝えていくため、地元で団体が設立される予定で、今年度はその前段とし関係者の現場視察や意見交換を行いました。